

## サステナビリティ・ガバナンス

### IHIグループのESG経営とサステナビリティ課題

IHIグループは「技術をもって社会の発展に貢献する」「人材こそが最大かつ唯一の財産である」を経営理念に掲げ、1853年の創業以来、時代時代における社会課題の解決に貢献してきました。持続可能な社会の実現と企業として持続的に成長することを目指し、変わりゆく社会課題に向き合い、従前以上に自然環境や社会に配慮しながら、その解決に事業機会を見出すことを「IHIグループのESG経営」として、2021年11年に表明しました。

IHIグループでは、地球環境とそこに暮らす人びとが持続可能であるために、未来世代も含めたあらゆる人びとが、豊かに安心して暮らすことができる社会—「自然と技術が調和する社会」を創ることをありたい姿として

います。そのために、IHIグループが取り組むべき社会課題を「脱CO<sub>2</sub>の実現」「防災・減災の実現」「暮らしの豊かさの実現」としました。地球規模で問題となっている気候変動への対策として、温室効果ガスの排出量を減らす「緩和」と、その影響に備えて被害を軽減する「適応」に取り組み、暮らしの豊かさを実現してまいります。

これらの社会課題に取り組む上で、「人権の尊重」や「多様な人財の活躍」が重要であり、ESG経営を通じて「ステークホルダーからの信頼の獲得」に優先的に取り組むべきと考えています。

#### ◎気候変動への対策

IHIグループは、2050年までに、バリューチェーン全体で、カーボンニュートラルを実現することを宣言しています。自社の事業活動によって直接・間接に排出さ

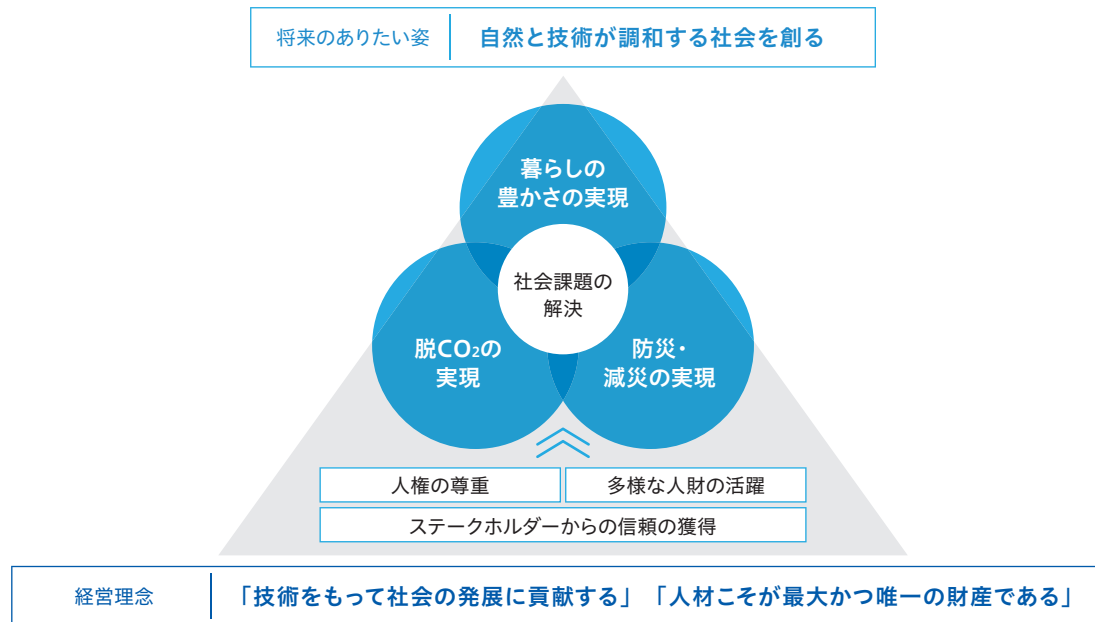
れる温室効果ガス(Scope1・2)だけでなく、私たちの上流および下流のプロセスで排出される温室効果ガス(Scope3)の削減に取り組み、カーボンニュートラルを目指します。具体的には、既存技術を活用した「トランジション」と、新しい技術による「トランスフォーメーション」の2段階で取り組んでまいります。

また、自然災害に強く経済的なインフラ整備および人的被害ゼロを実現する災害・被害予測とインフラを統合するシステムの構築により、安心・安全で暮らしやすいコミュニティの実現を目指します。橋梁を中心とした高度保全の知見を強みとして、センシング技術・モニタリング技術を活用し、予防診断技術の高度化を進め、適時適切なインフラの保全事業を拡大展開し、非常時には強く、平時には快適な、デュアルユースとなるインフラを備えたコミュニティの実現に取り組んでまいります。

#### ◎人権の尊重

IHIグループは、「IHIグループ基本行動指針」において、地球的課題を意識し、あらゆるステークホルダーの期待に応えるために私たちがなすべきことを定めています。この指針に基づき、2020年12月に「IHIグループ人権方針」を定めました。国際規範に基づく人権啓発活動を通じて、人権を尊重する企業文化と事業活動全般にわたる人権尊重の取組みを推進することで、あらゆる人びとに対する人権尊重の責任を積極的に果たしてまいります。また、サプライチェーンにおいても、取引先と協働して社会的責任を果たしていくCSR調達に取り組むことを、「IHIグループ調達基本方針」に定めています。バリューチェーンを通じて、事業活動によるステークホルダー・ライツホルダーに対する負の影響を予防・低減し、すべての人の豊かな生活を実現するために取り組みます。

### ●IHIグループのESG経営



◎多様な人財の活躍

持続可能な社会を実現するには、多様性を受け入れ、環境の変化を的確に把握し対応することが必要です。IHIグループは、人財の多様性を尊重し受け入れる「ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン」を重要な価値観とし、多様なバックグラウンド・多様な経験・異なる視点を持った多様な人財が活躍できる環境を整備してまいります。社員一人ひとりがより幅広い視野・経験を身に着けるための制度の拡充や、さまざまな機会提供を行なってまいります。

また、多様な人財の活躍のためには、社会の発展に貢献するという経営理念や自然と技術が調和した社会を創るという将来のありたい姿を、社員一人ひとりが理解し、企業としての使命を自覚することが必要です。IHI

グループは、会社と社員が、お互いの成長に貢献し合う関係性を保ちながら、個人と組織のベクトルを合わせていくことが重要であると考えています。

◎ステークホルダーからの信頼の獲得

IHIグループは事業を通じて社会課題を解決し、企業価値を高めるためには、グループが本来有する力を最大限に発揮できるよう基盤を築くこと、また、あらゆるステークホルダーとの積極的な対話を行なうことが重要であると考えています。

サステナビリティ推進体制

IHIグループは、持続可能な社会を実現するために、環境と社会に対する貢献と責任、それらを実現するためのガバナンスに関して、明確な価値観を示した経営を

行なう必要があると考えています。

この「ESG経営」において重要と考える事項を重要課題として特定し、取組み方針、推進体制および実行計画について協議・決定する場として、ESG経営推進会議を設置しています。ESG経営推進会議はCEOが議長を務め、原則年2回開催しています。

環境、人権やコンプライアンスなど、全社にまたがる課題については、適宜、全社委員会を設置することで、委員会で審議・決定した方針が各部門の具体的な施策に反映される体制にしています。

これら会議や委員会における議論のうち、経営上の重要な意思決定に関わるものについては、経営執行における意思決定機関である経営会議での審議を経て、取締役会に付議しています。

◎ESG経営推進会議の活動状況

2022年度に協議された主なテーマ

1. ESG 経営における  
2022年度の取組み実績と課題
2. E:「気候変動への対策」に関する活動状況
3. S:「人権の尊重」「多様な人財の活躍」に関する活動状況
4. G:「ステークホルダーからの信頼の獲得」に関する活動状況

2023年度の主な取組み

2023年度は、トップダウンとボトムアップの両輪で「IHIグループのESG経営」を進めることで、グループ全体への浸透を図ります。具体的には、「ESG経営」の進捗をグループ従業員に分かりやすく伝えることで、一人ひとりが自分事としてとらえられるような活動を進めると同時に経営幹部が大局的な観点で「ESG経営」の進捗を確認できる施策を講じます。

●サステナビリティ推進体制図

